
王子公園再整備基本計画(案)

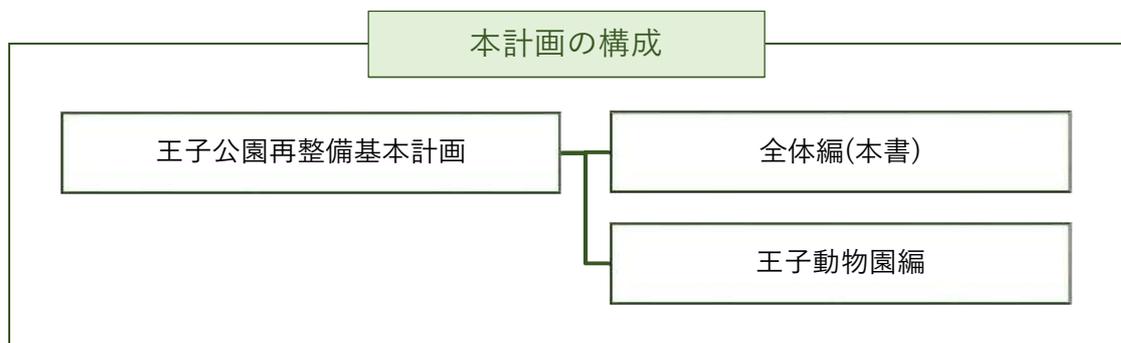
【全体編】

令和5年11月

神戸市

目次

1	再整備の位置づけ	1
2	計画概成期間（予定）	1
3	5つの基本目標	2
3.1	新たな「原田の森」の創造	2
3.2	学術・文化拠点のシンボルの創出	4
3.3	王子動物園の魅力向上	5
3.4	公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上	9
3.4.1	緑の広場・シンボルプロムナード	9
3.4.2	スポーツゾーン	12
3.4.3	駐車場	16
3.5	広域防災拠点の機能強化	18
4	整備スケジュールと概算事業費	19
4.1	整備スケジュール（予定）	19
4.2	概算事業費（予定）	19
5	関連資料	20
5.1	既存の樹木	20
5.2	大学ゾーンの土地利用の条件	21
5.3	旧ハンター住宅	21



1 再整備の位置づけ

『神戸2025ビジョン（2021年4月）』において、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる生活を享受でき、将来を担う若者が輝き、活躍できる持続可能な社会を築く「海と山が育むグローバル貢献都市」をめざしています。

王子公園再整備にあたっては、利便性が高い文教エリアのポテンシャルを活かしながら、若年定住・交流人口の増加や都市ブランドの向上を図り、持続可能な神戸の発展を実現していくため、2022年（令和4年）12月に「王子公園再整備基本方針」「王子動物園リニューアル基本構想」を策定し、5つの基本目標とゾーニング、王子動物園のコンセプト・理念や目指すべき方向性等を定めました。

本基本計画は、基本方針および基本構想に基づき、各ゾーンにおける施設の具体的な整備内容や事業全体のスケジュール等を定めたものです。



【再整備の位置づけ】



【ゾーニング】

2 計画概成期間（予定）

2024年度（令和6年度）～ 2030年度（令和12年度）

3 5つの基本目標

3.1 新たな「原田の森」の創造

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 新たな「原田の森」の創造を目指し、王子公園全体の魅力を向上させながら、良好な景観の維持、向上を図ります。
- ・ 公園周辺からも公園や緑の存在を強く認識できるように、地形を活かした開放的な景観形成を図ります。
- ・ 市民に親しまれてきた桜や生育良好な既存樹を活かしながら、異常高温対策としても有効な緑陰の創出を行い、存在感のある緑のボリュームや景観を未来につなげます。

(2) 計画概要

- ・ 良好な見通しとなるよう開放的な緑地を整備し、快適で安全安心な緑空間を形成
- ・ 適切な照明配置やフットライトを活用した、明るく安全な空間整備
- ・ シンボルプロムナードに新たな桜を植樹し、桜の通り抜けルートを拡大
- ・ 快適な緑陰のある園路・園地と休憩施設を整備
- ・ 壁面・屋上等における緑化の導入や建築意匠により園内建築物の圧迫感を軽減
- ・ 公園と大学が一体となる空間づくり
- ・ 桜を含む樹木について、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保
- ・ ユニバーサルな視点を取り入れた施設整備
(例：園地のバリアフリー化、インクルーシブ遊具、バリアフリースイレ)



【各ゾーンの主な計画概要図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学も含めた公園全体で、既存植栽の保存・保全方法や新たな植栽の実施等について、具体策を検討します。
- ・ Living Nature Kobe(*1)やヒーリングガーデン(*2)に代表されるような、本市で取り組む高質な植栽の設えを検討し、王子公園や動物園への来園者や他都市から来訪する来街者への顔となる空間を創出します。
- ・ 防火樹林帯としても機能する公園周囲の既存樹木について、保存に努めます。



【川沿い園地 整備イメージ】

- *1 Living Nature Kobe・・・自然の景の創出による神戸市の新たな緑と花のブランディングの取り組み。社会における持続可能性に対する意識の高まりを踏まえて、緑や花を取り入れた空間の整備に対して、自然環境の視点から新たな役割が求められている。
- *2 ヒーリングガーデン・・・訪れた方々が自然を感じられ、心の癒しとなる高質なみどりあふれる空間。

3.2 学術・文化拠点のシンボルの創出

(1) 理念・コンセプト等

- ・「教育」「研究」「社会貢献」という3つの使命を果たしつつ、王子公園周辺エリアの持つ歴史と文化を尊重するとともに、国内外の人材が集う王子公園周辺エリアの新たな中核施設として、地域と共に成長し、地域活力の醸成や定住人口・関係人口の創出など持続可能な地域社会の形成に貢献する、地域そして世界に開かれた大学を誘致します。
- ・大学には、神戸の将来を牽引する優秀な人材の確保・育成・輩出、産学連携による地元企業の成長・活性化、教育・研究成果の社会への還元といった「市域全体への貢献」、学生と地域や商店街等とが連携した賑わいづくりなど学生による社会貢献、リスキリングやリカレント教育など学び直しの機会の提供といった「近隣地域への貢献」の両立を求めます。

(2) 計画概要

大学設置・運営事業者による事業実施計画の概要は、下記のとおりです。

1. 大学運営（教育・研究等）
 - (1)全体コンセプト
自分で、みんなで。未来を起動するオープンイノベーションパーク
ー地域・社会・世界が大学に入ってくる学びー
 - (2)王子キャンパスで育成する人材像
世界や社会との連携、交流を通じて、国際性や多様性への理解を身につけ、アントレプレナーシップ（起業家精神）を発揮してより良い社会の実現に貢献できるイノベーション人材
 - (3)アカデミックコンセプト
目まぐるしく変転する予測困難（VUCA）な時代を切り拓くイノベーション能力を涵養
 - (4)キャンパスコンセプト
地域・社会・世界の様々な人、情報が行き交うプラットフォームキャンパス
2. 地域・社会への貢献
 - (1)地域経済
 - ・国際性豊かな教職員・学生が神戸を舞台に産官学民連携の取組を展開
 - ・アントレプレナー育成により、王子を創業・成長の基地へ押し上げる
 - (2)地域貢献
 - ・あらゆる世代や属性の人々が日々気軽に訪問できる場として、キャンパス施設を開放
 - ・社会のあらゆる人々が学びの楽しさに目覚めるリカレントラーニングパークの形成
 - ・商店街、王子動物園のイベント等への学生の協力・参加や、研究成果の市民への発信など大学のイベントへの地域住民の参加といった、学生と地域の人々が交流する機会を創出
3. 都市計画・景観等
 - (1)空間
 - ・緑豊かな六甲の山並みと調和したランドスケープを計画
 - ・ボリュームを抑え、六甲の山並みに配慮した分棟による配棟計画
 - ・石積擁壁をなくし、周辺の緑地空間とシームレスに繋がる開放的なキャンパスを整備
 - ・周辺に広がる緑を建物に積層させるとともに、アースカラーを基調とする色彩デザインにより、周辺の自然環境との調和を図る
 - (2)機能
 - ・中庭を含む外部空間を開放し、どこからでも入れる公園のようなキャンパスを整備
 - ・社会とシームレスにつながるキャンパスを目指し、あらゆる世代や属性の人々が日常的にキャンパスに立ち寄り、施設などを利用し、学生と交流できる場と機会を提供
 - ・神戸市と連携し、屋外・屋内避難場所を設置するなど、広域防災拠点の機能の向上に寄与

(3) 今後の検討に向けて

求める大学像の実現に向け、大学との協議を引き続き進めます。

3.3 王子動物園の魅力向上

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に生かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。
- ・ 自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が1日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 計画概要

1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCPに準拠または独自の取り組み）
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わない（終生飼育）。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）等を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針 による分類	該当種数 (うち新規導入)	該当種 (新規導入種)
最優先種	8種（2種）	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、（神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種）
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアライクイ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	56種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ、アビシニアコロブス、カピバラ、アフリカタテガミヤマアラシ、ワオキツネザル、ニッポンツキノワグマ、ベネットアカクビワラビー、フサオマキザル、ブラザグェノン、ピントロング、ヨザル、コモンマーモセット、エジプトルーセットオオコウモリ、ポリビアリスザル、ボブキャット、シベリアオオヤマネコ、ショウガラゴ、シタツング、ヤギ、カイウサギ、モルモット、ロバ、ヒツジ、ラマ、タンチョウ、マナヅル、カンムリシロムク、アカコンゴウインコ、ニジキジ、コバタン、ルリコンゴウインコ、オオハナインコ、シロムネオオハシ、シロフクロウ、ホシハジロ、インドクジャク、ウミネコ、ユリカモメ、ホンドフクロウ、オシドリ、ベニコンゴウインコ、キエリボウシインコ、オジロワシ、ビルマニシキヘビ、ケヅメリクガメ、ニホンイシガメ、グリーンイグアナ、キタインドハコスッポン、インドホシガメ
調整種	46種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ、チベットヒグマ、インドタテガミヤマアラシ、キンカジュウ、コモンリスザル、アカハナグマ、ウマ（カカバ）、キビタイボウシインコ、パナマボウシインコ、ニシムラサキエボシドリ、カンムリヅル、コガモ、ハッカク、アヒル、ガチョウ、ニワトリ、ホロホロチョウ、カワウ、ゴイサギ、シュバシコウ、オナガガモ、カモ雑種、コブハクチョウ、アカツクシガモ、セキセイインコ、フラミンゴ雑種、オオダルメインコ、ヒョウモンガメ、ニシキマゲクビガメ、アカアシガメ、マレーハコガメ、アンボイナハコガメ、セマルハコガメ、ミナミイシガメ、ヒラセガメ、クサガメ、ホオジロクロガメ、トウブハコガメ、ノコヘリマルガメ、オルナータハコガメ
計	127種	

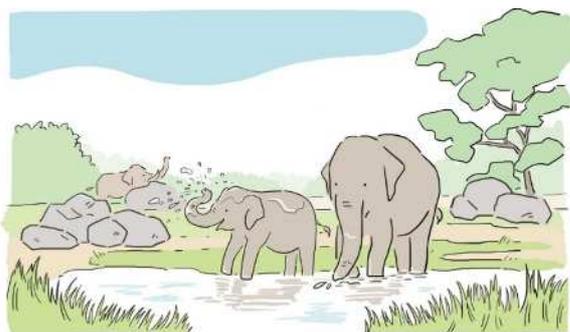
※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

1 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示手法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



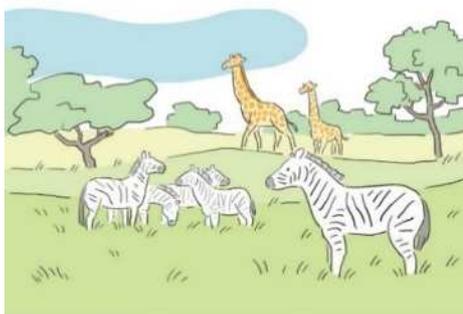
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



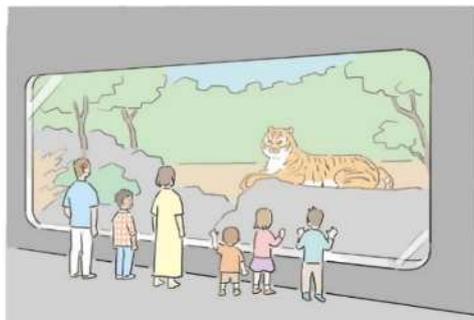
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

2 動物たちとの出会いをより印象付けるような演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々な楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

(3) 今後の検討に向けて

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の退避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直ししながら進めていきます。

3.4 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上

3.4.1 緑の広場・シンボルプロムナード

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 緑豊かで桜の名所として親しまれている自然環境や景観の保全、市民の憩いやスポーツ・子どもたちの学びや成長の場としての利用など、誰もが気軽に憩いくつろげる空間を目指します。

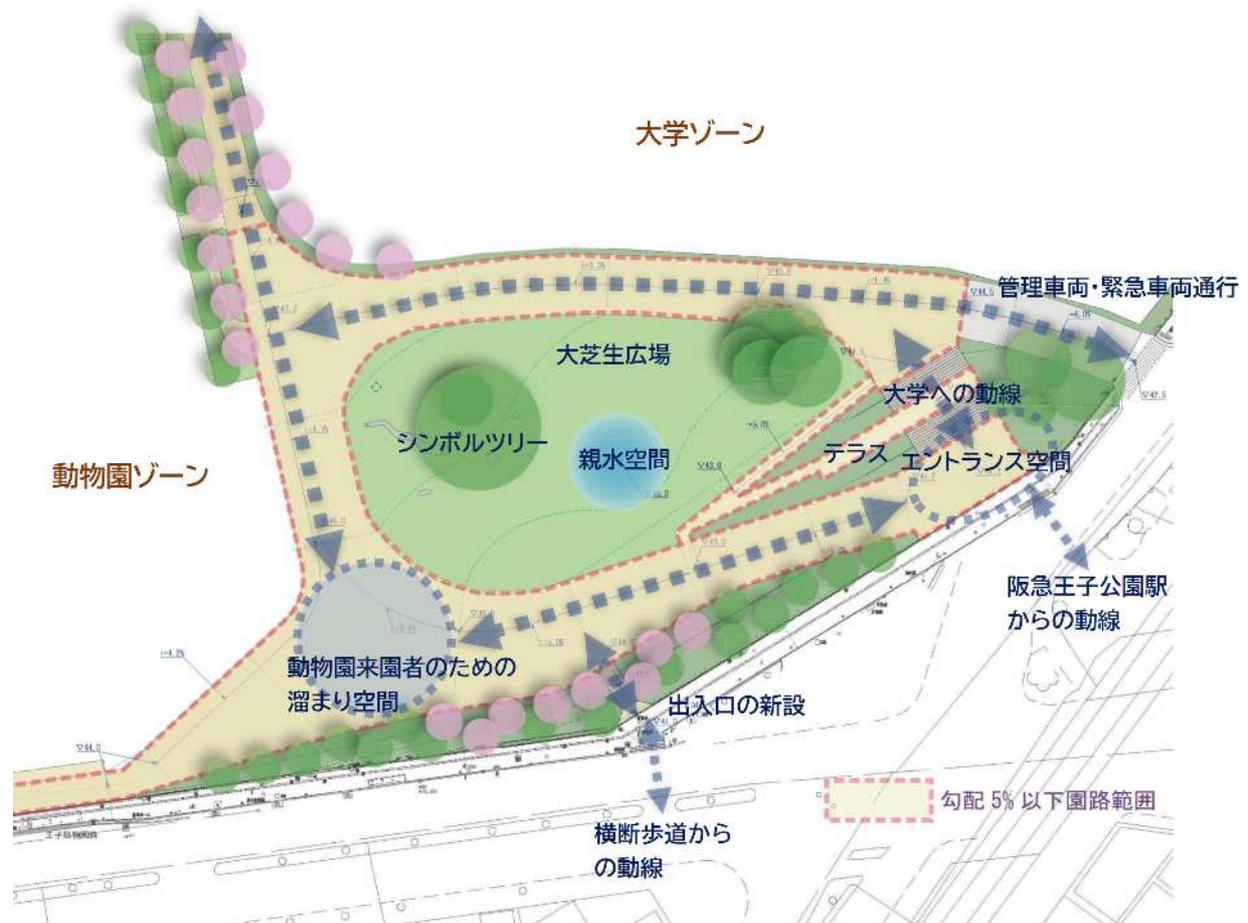
(2) 計画概要

1) 緑の広場

- ・ 芝生広場を中心とした王子公園駅前から公園・動物園を認識できる景観の創出
- ・ 開放的なバリアフリー動線の確保
- ・ 駅、大学、動物園につながる公園と一体的で高質な空間とにぎわいの創出
- ・ 景観木となる既存の大径木の保存活用と新植、既存モニュメント等の残置
- ・ 異常高温対策として有効な休憩スペースや緑陰の創出
- ・ 子ども遊び空間として親水空間や遊具等の設置
- ・ ラジオ体操等の地域活動ができる広場やイベントに使用できる舗装スペースの確保
- ・ 災害時等における緊急車両等の進入路の確保
- ・ 公園に必要な施設・機能（照明・トイレ等）の適切な配置

2) シンボルプロムナード

- ・ 魅力的な緑地軸・景観軸となる歩行者専用園路の整備
- ・ 既存樹木の活用や新たな桜の植樹などによる周辺の建造物の圧迫感の軽減
- ・ 桜の通り抜けルート拡大による魅力的なプロムナードの形成
- ・ 快適に歩けるように平坦部や休憩スペースを設置
- ・ 植栽の隙間から動物が見える・鳴き声が聞こえる仕掛けなど動物園を身近に感じられる演出
- ・ 地域活動やイベントに使用できる舗装スペースの確保



【緑の広場 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学ゾーンとの境界となる部分は、一体的な空間となるよう施設や植栽の計画について、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 飲食・物販の機能を想定したにぎわい施設の配置、業態等を検討します。さらに、大学内に設置予定のにぎわい機能と相互に補完するよう、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 様々なイベントや市民参画の仕組みづくりなど、ソフト面でのにぎわいづくりを検討します。
- ・ 異常高温対策に資する遮熱性を高めた自然を感じられる舗装材（現地発生土・木を活かした自然土系舗装やウッドチップ舗装等）、クールスポットとしてミスト等の導入を検討します。
- ・ 園内のジョギングコースや散策コースの設定について検討します。
- ・ 新たなモビリティの導入など、園内の移動手段を検討します。



【緑の広場 整備イメージ】



【シンボルプロムナード 整備イメージ】

3.4.2 スポーツゾーン

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 「誰もが気軽に利用できる多世代スポーツ活動ゾーン」として、引き続き幅広い競技、地域のイベント等の様々な用途で利用できるスタジアムを整備します。
- ・ スタジアム周辺には、子どもから高齢者まで気軽に遊び、誰でも運動できる広場を創出し、利用用途に応じた安全・安心な施設づくりに取り組むとともに、休憩、イベントにも利用できる多目的な空間を整備します。

(2) 計画概要

1) スタジアム

- ・ フィールドは、アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス等の競技が可能なスペースとして、現在と同規模の約 6,500 m²を確保
- ・ 400mトラック（4レーン）、砂場を配置し、陸上競技の練習に対応
- ・ 観客席は、現在のスタジアムと同規模の 3,000 席程度（一部車椅子用を含む）を設置
- ・ スタジアムから発生する音に関して、兵庫県条例に定める騒音の規制基準、公園敷地境界で昼間 55 デシベル以下を遵守するため、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策を実施
- ・ 市民の日常的な活動にも利用できる一般開放の時間帯を設定

2) 広場

- ・ スタジアム東側は「多目的広場」とし、休憩スペースやラジオ体操等での利用をはじめ、スタジアムのエントランス空間や大会時のバックヤードエリアとして、シーンに併せた利用が可能な施設を整備
- ・ スタジアム西側は、ちびっこ広場とわんぱく広場に挟まれる形で設置されている弓道場を西側へ再配置し、王子スポーツセンター北側駐車場の進入路を西側へ変更することで、現状の「ちびっこ広場」と「わんぱく広場」をあわせた広さを確保した「みんなの広場」を整備し、幅広い年齢層が利用できる施設を整備

3) テニスコート

- ・ 王子公園内の立体駐車場の屋上にハードコート 2 面を整備。屋上コートの周囲には、屋根付きのベンチを併設し、適宜休憩できるプレー環境を整備
- ・ ポートアイランドに新たに 6 面を新設

4) 登山研修所

- ・他のスポーツ施設との一体的利用が見込めるスポーツゾーン内へ再配置し、市民がより身近に親しむことができる施設を整備
- ・スポーツクライミングウォールや人工岩場を併設するなど、既存の登山研修所の機能を確保するとともにユニバーサルデザインにも配慮した建物を整備

5) 弓道場（近的）

- ・スタジアム西側の「みんなの広場」を一体的なスペースとして確保するため、スポーツゾーン西側へ再配置



【スポーツゾーン 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

1) スタジアム

- ・音響設備は、周辺環境に配慮し、指向性に優れたスピーカーの導入や機器の配置場所を工夫するなどを検討します。
- ・照明設備は、周辺環境への光漏れに配慮し、フィールド内だけを集中して照らせる指向性に優れた機器の導入や配置場所を工夫するなど、検討します。



写真提供：株式会社 MLJ

【スタジアム 照明イメージ】

- ・スタジアムは、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するように配慮した建築デザインや緑化等を検討します。



動物園資料館屋上からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北東側)からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北側)からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北西側)からスタジアムを望む

【スタジアム 整備イメージ】

※スタジアムの高さは、フィールドの地盤面から防音壁を含め北側で10m程度、南側で11m程度（最も高い中央部）を想定しています。なお、スタジアム北側における東西道路との高低差は2mから6m程度になります。

2) 広場

- ・「多目的広場」のデザインについては「緑の広場」や「シンボルプロムナード」と連続性を持ったものとなるよう検討します。
- ・「みんなの広場」の整備にあたっては、遊具、ボール遊びなど、幅広い年齢層が利用できる施設を検討します。
- ・近隣や広域からも訪れたいくなるような空間となるよう検討します。



【みんなの広場 整備イメージ】



写真提供：株式会社コトブキ



写真提供：株式会社コトブキ



出典：西宮鳴尾浜

<https://www.kobe-np.co.jp/news/odekake-plus/news/detail.shtml>

[?news/odekake-plus/news/experience/201708/10514217](https://news/odekake-plus/news/experience/201708/10514217)



写真提供：株式会社コトブキ



出典：富山市総合体育館

<https://www.hasetai.com/example/detail/1681/>

【みんなの広場利用等のイメージ】

3.4.3 駐車場

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 駐車場機能を集約して立体化し、緑の広場やシンボルプロムナードなど、人のための空間を創出します。
- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう、壁面緑化や周辺の植樹、建物の高さやデザイン等に配慮します。
- ・ 駅に近いという立地特性、平日の利用状況等を踏まえ、現在よりも駐車台数を抑えた規模で整備します。
- ・ 大型バスでの来園にも対応した駐車場整備とします。
- ・ 公共交通機関の利用促進施策の充実、駐車場料金見直し等による交通手段の転換、駐車場混雑状況の情報提供などによる利用時間帯の分散を図ります。
- ・ 駐車場の屋上の一部をテニスコートとして活用します。

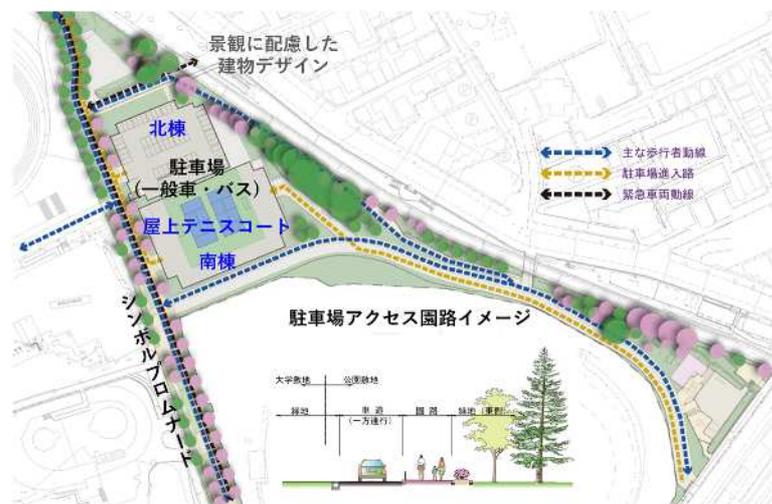
(2) 計画概要

1) 立体駐車場

- ・ 整備台数：500 台程度（平日は大型バス駐車枠を 20 台程度確保）
※立体駐車場以外にも屋外に大型バス 5 台程度の待機場所を確保
- ・ 建物概要：北棟(建築面積約 2,000 m²) 4 階+屋上（駐車場利用）、
南棟(建築面積約 3,000 m²) 3 階+屋上（テニスコート 2 面）
- ・ 建物機能：エレベーター、トイレ、電気自動車充電設備、最新の出入庫管理システム 等

2) 園内・周辺道路

- ・ 駐車場アクセス園路（歩車分離を図り歩行者の安全を確保）
- ・ 市道阪急沿線の再整備（車道部の一部拡幅による円滑な入庫動線の確保、市営駐輪場の再編）



【駐車場・アクセス園路 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう様々な視点場からの景観に配慮した建築デザインや緑化を検討します。
- ・ 駐車場運営システム（料金体系、情報案内、周辺道路への影響を抑えるためのマネジメント方法など）を検討します。
- ・ 公共交通機関の利用促進を図るための施策を検討します。



【駐車場 整備イメージ】

※駐車場の高さは、現在の補助競技場の地盤面から 15m程度、屋上テニスコートの防球ネットの高さは 10m程度を想定しています。

3.5 広域防災拠点の機能強化

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 阪神・淡路大震災の経験を活かした防災機能を確保・強化します。
- ・ 公園全体で広域防災拠点としての機能を強化します。

(2) 計画概要

- ・ ヘリコプター離着陸場の確保
- ・ 緊急避難場所や救援活動拠点、緊急車両の動線の確保
- ・ 雑用水の確保（親水空間・雨水貯留槽等）
- ・ 非常用電源や太陽光発電、かまどベンチなど防災施設の整備
- ・ その他給水拠点や防災行政無線、物資集積配送拠点、地域備蓄拠点など既存機能の維持

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 救援活動拠点については、公園全域で機能を確保できるよう引き続き検討します。
- ・ 大学とも連携しながら、地震災害だけでなく豪雨災害などに対応できるよう防災機能の強化について引き続き検討します。
- ・ 地域や大学と連携して防災施設の活用などに取り組みます。



【防災機能 配置イメージ】

4 整備スケジュールと概算事業費

4.1 整備スケジュール（予定）

年度別整備スケジュール（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	年度	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)	2030 (令和12年)	2031 (令和13年)	
動物園	第1フェーズ (順次供用開始)	→								第2フェーズ以降 (順次供用開始)
			サバナゾーン・爬虫類館		エントランス 管理事務所・動物病院		アジアゾーン(一部)			
スポーツ施設 公園施設	設計・施工 (順次供用開始)	→								計画概成
		既存施設解体(プール等)・施設整備(弓道場等)			立体駐車場		スタジアム		緑の広場・シンボルプロムナード等	
大学	(参考)	計画協議・土地譲渡・設計・施工						開学		

※個別の施設整備のスケジュールについては、今後、詳細設計や工事請負契約後の施工計画、大学との協議等により変更が生じる場合があります。

4.2 概算事業費（予定）

計画概成期間にかかる事業費（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	整備内容	事業費（円）
動物園	第1フェーズ (全体)	約70億 (約140億)
スポーツ施設	スタジアム、登山研修所、弓道場など	約90億
公園施設	緑の広場、シンボルプロムナード、園地・園路、多目的広場、駐車場など	約100億
総額		約260億 (約330億)

※今後、関係機関との協議や物価水準の変動等により変更が生じる場合があります。

5 関連資料

5.1 既存の樹木

園内には多数の既存樹が存在し、大きく育っている木も多く、常落葉の大径木は、園内の自然な日除けとなり、動物園内では、憩いの場に影をつくり来園者に涼を運んでいます。また、青谷川沿いでは濃い緑を形成し水音と合わさり溪谷のような雰囲気を作り出しています。

桜は、動物園内とテニスコート周囲に多く、それゆえ、本園は桜の名所ともなっており、春には動物園内を主たるルートにした桜の通り抜けが開催され、多くの利用者に親しまれています。

ただし、大径木や特に通り抜けルート上の動物園内の桜の中には、老木で樹勢、傷、腐朽等の異常があり生育回復が望みにくい、活力度の低い樹木も多数あります。



【動物園内の既存大径木の木陰】



【桜の通り抜けルート】



【現況樹木位置図：既存樹全体】

5.2 大学ゾーンの土地利用の条件

誘致する大学が、将来にわたってその役割を担い続けること、地域に開かれた大学と呼ぶにふさわしい施設とすることを目的として、大学ゾーンには次の利用条件を設けます。

①建築物の用途等の制限

大学等の建築物及びそれに附属する建築物のみ建築可能とする。但し、著しい騒音や振動を伴う施設など、周辺環境を著しく悪化させる恐れがある施設を除く。

②建築物の壁面位置の制限

阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、建築物の外壁又はこれに変わる柱の面から道路境界線までの距離は5 m以上とする。

③かき又はさくの構造の制限

公園との一体性の確保や阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、緑の広場・遊歩道との敷地境界線と道路境界線に面する部分には、原則として門、塀、垣及びさくを設置してはならない。

5.3 旧ハンター住宅

重要文化財「旧ハンター住宅」については、解体・再建による耐震工事に際して、北野地区への移築の検討を進めます。